

1 2 教材・教具について

1 教材・教具の選定や作成は、児童生徒の実態把握から

教材・教具が児童生徒に合っているかどうか、よく見極めなければなりません。担任が一生懸命に教材・教具を選定したり、作成したりしても児童生徒が取り組もうとしない時があります。その時は、児童生徒の「やりたくない。」という気持ちを汲み取り、やりたくない理由を十分に考え、教材・教具を児童生徒の実態に合った物にカスタマイズしていきます。また、一方では、うまく課題が遂行できる教材・教具であっても良かったのはなぜかという視点を持ち、教材・教具のさらなる選定や改良を試みることも大切です。

児童生徒に合った教材・教具が広げられれば、いろいろな意味で成長へのステップアップへと向かわせることができます。指導目標もレベルの高いものに上方修正していくことができます。

また、教材・教具の活用を通して、児童生徒と担任のやり取りが活発化していくことも期待されます。学習の基盤である児童生徒と担任の良好なコミュニケーション作りにも好影響となります。

【教材・教具の具体例（小学校1年生の児童のケース）】

☆児童の実態☆

- ・色や形の弁別ができる。
- ・名前カードの呼名ができる。
- ・家族の名前が言える。
- ・平仮名で書かれた自分の名前カードが選べる。
- ・ペットボトルのふたを開けたりできる。



☆児童が活用できそうな教材・教具☆

- ・家族や友達の名前カード（呼名したカードを取る学習）
- ・両手を使う、ひねる作業
- ・五十音表と平仮名カードのマッチング
- ・割箸と箸袋の合体作業
- ・瓶等のふた閉め

2 教材・教具の選定や作成の留意点

教材の選定にあたっては、古い教材を試しに使わせてみて、児童生徒の教材への関心度をリサーチしておくといいでしょう。せっかく購入したのに全く使わないでしまったということが避けられると思います。児童生徒が自分からやってみようと思える魅力ある教材・教具を準備します。そして、教材・教具を使ったことで、「うまくできた。」「もっとやりたい。」と思えるような成功体験に導く必要があります。

【良い教材・教具のポイント】

- ・何をどうすれば良いか見て分かる仕組みであり、自ら活動をスタートできる物。
- ・学習の流れや正否を自分で確かめることができる物。
- ・安全に取り扱うことができ、材質や大きさ、色等が興味や関心を持たせる物。
- ・簡単に作成でき、児童生徒の取り組みに合わせて工夫ができる物。

（初めから立派な教材・教具を作ろうとせず、安価な素材を使って、いろいろ試作してみることがポイントです。）